リレー出力ユニット MXOP－RY－002
取扱説明書　2.0.0

本書の内容は、製品の仕様も含め改良のため予告なく変更することがあります。本書に掲載されている内容は、2019 年 2 月のものです。

付属品：端子台開け閉め用精密ドライバー

MATRIX

製品概要

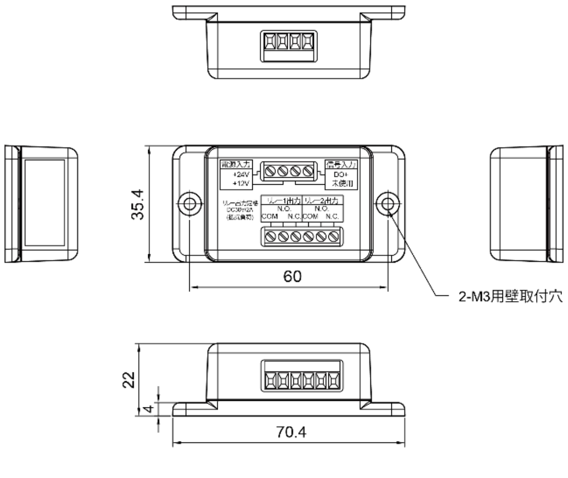
本製品は、弊社製リーダー（RT501、RTmini、Box11 など）の出力（DO 出力）を、リレー接点出力に変換するための追加用機器です。

リレー接点仕様	
最大電圧	AC250V DC220V
最大電流(抵抗負荷)	2A
定格(抵抗負荷)	AC125V 0.5A　DC30V 2A
接点構成	c 接点　2 回路

⚠使用上のご注意

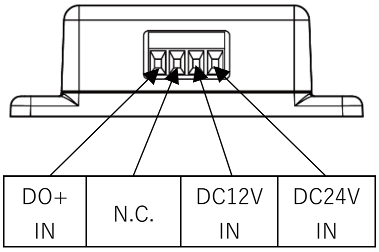
- 各線はしっかりと確実に接続してください。
- 改造・分解しないでください。
- 激しい衝撃を加えないでください。
- 幼児の手に触れる場所に放置しないでください。
- 異物を入れないでください。
- 水が入ったり、濡れたりする場所で使用しないでください。
- 本製品の上にものを置かないでください。
- 湿気や埃の多い場所、油煙や湯気があたる場所で使用しないでください。

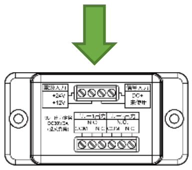
製品外観



入力端子

入力端子差込方向から見た端子の配置



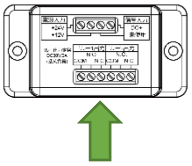


入力端子差込方向

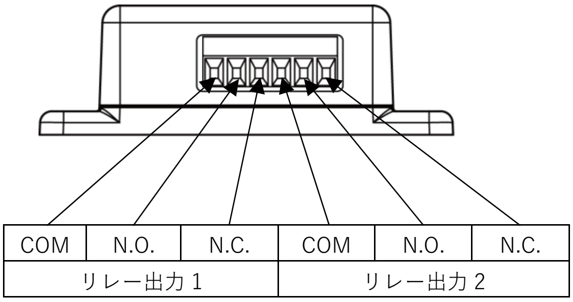
DO+ IN	リーダーの DO+端子と接続してください。
N.C.	どことも接続しない端子です。
DC12V IN	電源電圧が DC12V のリーダーから電源線を引き出し、ここに接続してください
DC24V IN	電源電圧が DC24V のリーダーから電源線を引き出し、ここに接続してください。

出力端子

出力端子差込方向から見た端子の配置



出力端子差込方向

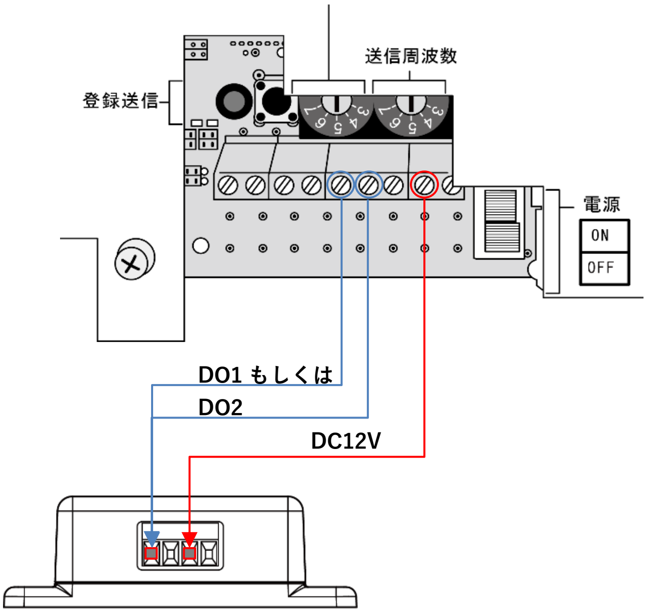


COM	リレー出力のコモン端子です。
N.O.	リレー出力のノーマルオープン端子です。
N.C.	リレー出力のノーマルクローズ端子です。

リレー出力は、出力 1 と出力 2 の 2 つあります。出力 1 と出力 2 は DO + IN に対して同一の動作（1 接点入力、2 回路動作）を行います。

Box11（検知ユニット）との接続例

BOX11 検知ユニット(MXRT-EL-001)の DO1,DO2 と接続する場合は、以下のように配線してください。

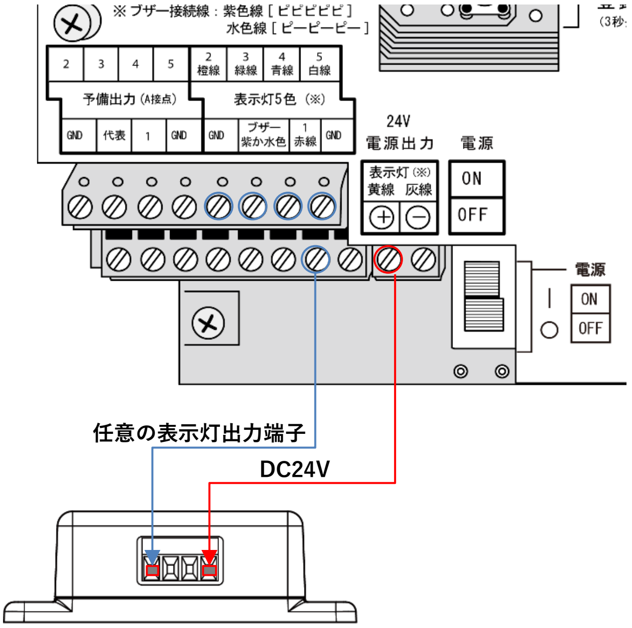


入力端子側

※検知ユニットの接点出力設定は、「BOX11_検知ユニット 接点出力仕様」を参照してください。

Box11（警報ユニット）との接続例

BOX11 警報ユニット(MXCM-EL-001)の表示灯出力と接続する場合は、以下のように配線してください。



入力端子側

※警報ユニットの接点出力設定は、「BOX11_警報ユニット 接点出力仕様」を参照してください。